

平成26年度第4回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成26年10月14日（火） 午後6時00分～8時00分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

議題 (1) 第三次読書のまち八王子推進計画の素案について
(2) 図書館まつりについて

その他

出席者氏名

委員	三浦 眞一	小平 有紀	三塚 久美子	鈴木 康弘
	内沼 愛子	山崎 久道	児玉 和恵	斎藤 和巳
	豊田 亘男	三上 浩一	平塚 裕之	細井 東
欠席委員	吉澤 淳	中村 和也	志田原 節子	田中 勉

※過半数以上の出席があるため、有効に成立。

事務局 豊田図書館部長、中村中央図書館長、青木生涯学習センター図書館長
村田南大沢図書館長、福島川口図書館長

中央図書館：一杉主査

生涯学習センター図書館：高橋主査

川口図書館：嶋崎主査 藤本主査

南大沢図書館：新井主査 安齊主査

傍聴人 0 人

会議録署名委員 鈴木 康弘

【議事概要】

1. 委員の変更

八王子子ども文庫連絡協議会より

森岡 庸浩委員 から 児玉 和恵委員

議題（1）第三次読書のまち八王子推進計画の素案について

《事務局より報告》

1. 読書環境を取り巻く状況
2. 第一次計画及び第二次計画のこれまでの成果と見えてきた課題
3. 基本方針
4. 具体的な取組み（子ども読書活動推進編）
5. 具体的な取組み（生涯読書活動推進編）

について説明

《委員の質問》

- ①中核市になるとどのように変わるのか

《事務局からの回答》

- ①市としては業務が大きく変わるが、図書館としては変更はない。市民の方が中核市としてふさわしい住民自治を行うに当たり、図書館を是非、活用していただきたいと考えている。

1. 読書環境を取り巻く状況

《委員の質問》

- ①不読率の話があるが、調べもので本を読むのは読書と考えているのか

《事務局からの回答》

- ①計画策定にあたり、作業部会でも議論をした中で、新聞や調べものための書籍、また、インターネットによる調べものも読書と捉えている。そのため、本として読まれなくなったとしても、読書自体はそれほど減っていないと認識している。

《委員からの意見》

- ①何をもって読書と言うのか。1冊の本を最初から最後まで読まなくては読書とは言えないのか。調べものでちょっと本を読むことも読書と言えるのでは。教科書を読むことも読書と位置付けている例もある。「八王子基準」のようなものを作り、読書の位置付けを独自に定義出来れば面白いのでは。
- ②アメリカの場合は電子媒体による利用が増えているが、書籍、紙媒体の発行部数も増えている状況だが、日本は電子媒体は増えているが紙媒体が減っている。何が違うのか調べてみるのも良いのではないか。

2. 第一次計画及び第二次計画のこれまでの成果と見えてきた課題

《委員の質問》

- ①「だれもが無理なく読書ができるように」とあるが、内容が障害のあるかたやユニバーサルデザインについて述べている。表題からすると、「本を読みなさい!」と言われて読むのではなく、気軽に読書ができるようなニュアンスに聞こえる。もっと分かりやすい表題にできないか。

《事務局からの回答》

- ①作業部会で、堅苦しい表現ではなく、市民の方々に馴染まれるよう、砕いた表現を検討した中で決めている。

《委員からの意見》

- ①「だれもが無理なく読書」について高齢者や障害者だけではなく、もっと広く展開してほしい。例えば、図書館を「知のテーマパーク」のように位置付け、わくわくドキドキするような環境づくりを目指してほしい。

3. 基本方針

《委員の質問・意見》

特になし

4. 具体的な取組み（子ども読書活動推進編）

《委員の質問》

- ①「家庭での読書活動の推進」とあるが、抽象的ではないか。文面では「親子」として述べているので「親子読書活動の推進」としてはどうか。単に家庭内の読書活動の推進と書かれていても何のことか分からない。
- ②「親子読書」と言っても、活字が読めない幼児と活字が読める子どもでは読書に対する形が違うと思うがどう考えているのか。
- ③「家庭の中の読書」はどこの部署が担当するのか。

《事務局からの回答》

- ①ご意見ありがとうございます。再度検討します。
- ②保育園のイメージでは保育士が子どもに対して読み聞かせを行うと思われるが、八王子の取組みの中で保育園で親子教室を行うことになり、保育園や幼稚園でも子育て広場のように親子を対象にした取組みを行うことになる。また、小学校では朝読や高学年による低学年への読み聞かせなどを計画に盛り込んでいる。
- ③図書館から直接家庭に入ることは難しいので、幼稚園や保育園、学校などの様々な切り口を通して家庭読書の支援を図書館が担うと考えている。

《委員からの意見》

- ①家庭での親子読書として、親が読書をしている姿を見せて、子どもが読書に親しむような方向へ持って行くような計画も考えてほしい。
- ②小P連では昨年から読書川柳を募集しているが、親が読書をしていないことが課題となり、子どもの読書離れは親の責任でもあるのではないかとの話しになった。
- ③文庫連では家庭で読みたい本のアンケートを取って図書館から貸出しを受けている。成果としてはまだ分からないが、親子で本について話す機会を持ってもらっている。
- ④難しいと思うが、読書を家庭の中からスタートできるような計画や活動を考えてほしい。
- ⑤今回の計画では子どもに対する読書活動の取り組みはあるが、家庭については課題があると思う。育児についてはスマホ育児なども課題とされているが、良い事例もある。コラムのような形で良い事例を発信し、家庭啓発をすることも必要。

5. 具体的な取組み（生涯読書活動推進編）

《委員の質問・意見》

- ①生涯読書活動の対象は何歳くらいからなのか。
- ②年間170万人の利用者がいるが、社会人の利用はどうなのか。

《事務局からの回答》

- ①大学生以上を生涯読書活動の対象としている。
- ②やはり小さい子ども連れや高齢者の利用が多いと認識しているが、通年開館及び開館時間を19時までにして、社会人の方が利用できるような取り組みも行ってきた中で、曜日や時間帯により利用者の年齢層が拡充している。

《委員の意見》

- ①高齢者や障害者にたいする計画は多く感じるが、社会人をターゲットにした計画が少ないように思える。もう少し働き盛りの方々が利用するような計画を検討いただきたい。

6. 全体を通して

《委員の意見》

- ①具体的な取組みの中で、No.5で公立保育園と記載されているが、民間の保育園でも園庭開放や育児相談も行っているので「公立」を削除してほしい。また、「幼稚園」も追記願いたい。

今後の流れについて

計画の完成は来年の3月。今回の会議を経て再度見直しを図り、12月中旬から来年1月中旬までにパブリックコメントを募集し、パブリックコメント募集終了後に再度、委員の意見を伺う。

議題（2）図書館まつりについて

《事務局より報告》

10月31日（金）から11月16日（日）まで、本会の委員でもある豊田委員に実行委員長を務めてもらい、いちょう祭りに合わせて中央図書館で行う。

《委員の質問・意見》

特になし。

その他

1. 広報「はちおうじの教育」（10月15日号）に図書館開館30年にあたり、小平委員と三塚委員のコメント記事が掲載されました。
2. 今年度の読書感想画は990作品ほどの応募、読書感想文は3380通ほどの応募があり、どちらも応募数は年々増えている状況である。

次回会議は平成27年1月27日（火）、18時から

八王子市中央図書館 3階 会議室

で行う予定とします。